

令和5年度第1回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年4月6日（月） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 301会議室

■出席委員 13名（50音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、田中 和則委員、鷺尾 和彦委員

■欠席委員 2名（50音順）

高木 康裕委員、細野 佳苗委員

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 基本構想の構成について
- 3 その他

閉会

【開会】

出席委員数は13名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。
新たに審議会委員に就任した田中委員より挨拶があった。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料48）の確認を行い、修正等なく了承された。

【2 基本構想の構成について】

事務局より資料49、50について説明。

○第5章 分野別の目指すまちの姿

1 子どものそれぞれの成長をみんなで支えるまち

委員 シンプルになっているが、元々前に入っていた妊娠、子育てというまさに少子化の問題のところがすっぱり抜けたと感じる。どこかに含まれているということであればよい。子育ては子どもだけではなく保護者や家族の課題でもある。

会長 「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援が重要です」の部分の修正について考え方を補足していただきたい。

事務局 主役は子どもであると考え、まず子どもの成長に関わる場所、次に子育てをしている方と地域との支え合い、3番目に学校教育について記している。妊娠期を入れるとしたら2段落目になり、「妊娠期や子育て期を過ごしています」といった形にすることでご指摘を反映できると考える。

会長 目指す姿を実現するための具体的な政策課題であり、その部分がないと課題が示せないと思う。ここに掲げるものは、こういう状態を実現するためには、切れ目のない支援のために何ができるのか、であると感じた。

委員 関連して「産み育てられる」という言葉を使えば「産む」ことから「育てる」までが入るため、小学校以降を含めると、「産み育てられ、成長できる環境」等とするとよいのではないかと。「また、～」以降の学校教育の「学校・家庭・地域社会の連携・協働による」は、学校教育に関することか別なのか分かりにくい。「学びを支える環境」では学校教育だけになってしまうので「学び・育ちを支える環境」としてはどうか。また、タイトルは「それぞれの」がなくても、「子どもの成長を支えるまち」で十分伝わると思う。

委員 「学校教育」では学校だけに見えてしまうため「コミュニティ、地域、家庭と学校が協働して教育」というような記載が望ましい。

委員 「学校教育」について今の意見に賛成であり、対象を地域に広げるような文言が入ってほしい。この文章は文科省が提唱する部分に近いが、多摩市では「生きる力」を「ともに生きる力」と考える方向性が望ましい。「確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた」とすると、個人の調和だと思いが、それが何に活かされるのかということと「と

もに生きる力」に活かされていくような方向性が含まれているとよい。「それぞれ」を外すという意見に加えて、「成長をみんなで支えともに生きるまち」と、言葉を加えていただけるとありがたい。

事務局 「学校教育」という言葉が際立っているとご意見をいただいた点について、第3段落全体の中で調整させていただく。また、「産み育てる」については「妊娠期、子育て期を過ごしている」という言葉か、「産み育てる」とするか、用語の選択について、できればある程度決めていただけると案をつくりやすくなる。

委員 ここでは産む、育てる、成長するという3つの段階を考えるとよい。産むという段階では子どもを健やかに産める環境、育つ段階では生まれた子どもが育っていく環境として、子どもが元気で親が健やかであり地域で支える。そして、育ち、伸びていき、中高生を視野に入れて成長するというような言葉を「産み育てる」を補足する文言として使えるとよい。「妊娠期」では少し具体的すぎるかという気もする。

会長 「子育て・子育ち」は段階として入っているので「産み育てる」を入れられるのではないか。子どもの政策の中では妊娠期、産むところからというのは、前回の案の中でも明言しているところであり、よいのではないか。

事務局 現在、こども家庭庁でも母子保健、児童福祉の一体的な相談体制という話が出てきており、行政的な部分でもそういう方向性となっている。

委員 「妊娠期」を入れることにこだわりがある。産む瞬間ではなく、その前の段階の妊婦にとってどれだけ過ごしやすいまちづくりをするかということも重要だと考える。「産み育てる」という言葉は整って分かりやすくコンパクトだが、ここでは女性が安心して妊娠し、働きながらまちの一員として安心して住むことができることを前面に出すために「妊娠期」という言葉は重要だと思う。最初の文章をできるだけ活かしていただきたい。

委員 子どもがほしいと考えたときに安心して子どもを産み育てられるということの中に、妊娠することも含めてもう少し幅広さがあるかと思う。妊娠という具体的な言葉を出すよりも妊娠の前の段階で、多摩市では安心して子どもを授かり育てられるという意味での「産み育てられる」がある。聞く人によってはニュアンスが違うと思うが、具体的に妊娠という言葉を出すよりも、多摩に住んでみようかなと思ってもらえるのではないか。

委員 安心して産み育てることのできる環境整備が必要となる。

会長 妊娠は選択でもあるが、状態でもあるので、それは含んでいると読むこともできるといったあたりを整理していただきたい。学校教育についてももう一度ご検討いただきたい。

2 みんなで支え合い、安心していきいきと暮らせるまち

委員 「健幸的な生活」について、健幸都市づくりは健康だけではなくより幅広いものを含むとこの計画の中でうたわれている。ここでは「健幸的」とすることでどこの部分にあたるのかがむしろ分かりにくくなってしまう。主な分野が健康、医療、介護、福祉なので「健幸」は、「健康」で良いのではないか。「健康」は心身の健康を指す。

「関係機関が連携しています」とは行政サービスと関係機関の連携であるが、市民のネットワークということもあるため、「拠点が整っており、市民と関係機関が連携しています」等、「市民」という言葉を入れるとよい。

会長　　今まで使っている言葉なのでいろいろな意味を汲み取っていただくことは可能と思われるが、やはりシンプルにしたほうがよいのではないかというご意見である。

事務局　関係機関については、実際には機関だけではなく民生委員なども含まれるため「市民や関係機関が連携し」とすることにより、広がりが出てくると思う。「健幸的な生活」について、こちらは前回健幸まちづくりの注釈が必要とご指摘をいただいているため、第4章で注釈を入れる予定である。まずは身体面の健康、それだけではなくより広い概念として生きがい、安心・安全な暮らし、誰もが幸せを実感できるという、かなり広い概念である。健幸がよいと事務局では考えている。

副会長　いきなり地の文で「健幸」とするとやや唐突に感じることもあるため「いつまでも自分らしく幸福に生きられる、すなわち健幸」とするなど、補足を加えるとよい。

3 地域で学び、活動し交流しているまち

委員　　スポーツという言葉が抜けている。入れるところは難しいが、スポーツが盛んなまちであってほしいと思っている。スポーツは地域活動に関わることであり、条例ができたばかりでもあるため、何かしら入れてほしい。

事務局　スポーツはこの分野であるが、明文化はされていない。「生涯学習・スポーツ・社会教育活動の場や機会」とすると、今のご指摘に対応できると考える。

委員　　「地域で学び、活動し交流しているまち」は、「地域で学び合い」としてはどうか。

委員　　「ゆるやかに交流しながら」の表現があるが、「ゆるやかに」は必要か。「人権を尊重し合い、交流しながら」でよいと考える。

委員　　実際のコミュニティセンターでの経験から、コミュニティ活動は「ゆるやかに」とすると人と人とのふれあいの状態としてリアルな感じはある。ゆるやかな状態で活動をしている気がするので、この言葉を最初に読んだ際は合っていると思った。

委員　　「人と人とのゆるやかなつながりを感じながら」という元の文言が「ゆるやかに交流しながら」になったと思うが、ネットワークについてはゆるやかなほうがいろいろなことがうまくいくと感じている。上の文章のほうがピンとくると思う。

委員　　形容詞を入れると限定されることもある。ときには密着、ときにはゆるやか、全体的にはゆるやかということを表すにはあえて「なし」にするという方法もある。

2段落目の「多世代共生型コミュニティ」は、多摩市独自の考え方であれば鉤かっこを付けるとよい。また、「新たに活動する人が増えていく」については、人が増えることではなく活動が目的だと思う。例えば、「新たな活動が生まれ展開していく多世代共生型コミュニティ」というような形で、活動に主眼を置いた表現にしてはどうか。最後の行で「みんなが文化・芸術に出会えるまち」となっているが、出会うだけではなく「みんなが文化・芸術に出会え、文化・芸術が生み出されていくまち」などとしてはどうか。

事務局　こちらは自治の部分で、今までも参画と協働という形で進めてきたが、変換期を迎え

ている。地域共創の考え方の1つとして、若い世代の参画など幅広い世代が重要だということで、このように記載している。多世代共生という言葉自体はほかでも使われている。鉤かっこを付けるべきかについては検討する。

会長 具体的な事業や計画につながっていくのであればいいが、そうでなければ「多世代共生型のコミュニティ」などにするとよいかもしれない。鉤かっこは付けてもよいかもしれない。

委員 コミュニティという言葉自体が少し変化してきている。新しいコミュニティをつくる、目指していると理解するなら新しい用語でよい。多世代共生型コミュニティはいい言葉であると思うので、これから打ち出すという姿勢で記載するとよい。

委員 文化・芸術活動が何を指すかという、心が豊かになる、生きがいを感じることも含むとすれば、「心豊か」の文言を入れてほしい。スポーツもそうだが、心が躍動したり、感動したり、それを見て拍手をしたりすることが生きる活力につながる。

委員 ストレートに「文化・芸術を楽しむ」としてはいかがか。

事務局 例えば、「文化芸術に出会い、親しむ人が増え、みんなが心豊かなまちになっています」、あるいは、「創造と発信により、みんなが文化芸術を楽しんでいます」といった形が、今のご意見を踏まえると代替案になる。

委員 「～の発信により、文化芸術を楽しむ人が増え、みんなが文化・芸術を…」やはりここに「心豊かに」を書ければよいと思う。

委員 心豊かには少し押しつけがましいと感じる。ストレートにその人が楽しめればよい。「文化芸術を楽しむ」という文言を入れてもよいのではないか。

委員 文化・芸術の機会が与えられ、その機会によって楽しむことができる、という書き方がよいと思う。

委員 文化・芸術を市民が創り出せるというところもほしい。「楽しむ」だとあるものを受けただけという印象がある。自分たちでも発信していくという要素を入れ「文化・芸術に親しみ、出会い、創り出せるまち」とするのはどうか。

委員 音楽にしても、実際に演奏などに参加する人も多いまちであるため、そういう意味合いの言葉をここに加え、その環境を醸成するとよい。

委員 楽しむという前に、文化・芸術の創造と発信によって接点を持つてはじめて親しみ、楽しめる。その経過があると思う。

会長 「出会い、楽しみ、つくる」とすると、スムーズに表現できる。「ゆるやか」については、施策的な課題等がないのであれば、シンプルにする方向での対応としたい。

4 みんながいきいきと働き、活気と魅力あふれるまち

委員 観光の視点で「多くの人が集い」では、市民だけを対象にしているように捉えられるが、「訪れ」を加えて「多くの人を訪れ集い」とするとよい。

委員 見出しは「みんながいきいきと働き、活気と魅力あふれるまち」となっているが、観光が入っていないと感じる。農業も観光も「集い」がキーワードであるため、「いきい

きと働き、集い」としてはどうか。1段落目、地域産業はよいが、「職住近接などの多様な働き方が実現し」が分かりにくい。ここで言いたいのは、シニアや副業を持つ人たちが多摩市で力を発揮できるようなことを念頭に置いて書くときよい。商店街が出てこないが、商店街は働く場、市民が集う場、地域の核という都市計画の中心として重要であるため、地域の場として商店街を入れてほしいと感じた。「農地の持つ多面的な機能を活かすため」とすると、機能を活かすために協力するのか、とも読めるので、「活かしながら」などとするとよい。

会長 産業振興に商業、商店街、商工会が含まれるのか。商業に関する議論では、商店街の話もあった。

事務局 地域産業は商業であり、商店街も要素としては入ってくる。これから産業振興マスタープランも策定していく。

会長 商業の要素を入れていく方向で検討いただきたい。

委員 商店街は、観光の新しいあり方につながるかもしれないと感じた。

委員 「職住近接などの多様な働き方」とあるが、「など」と書くとそれ以外のものがこの前に必要になってくると思う。「職住近接など」を省いて、「多様な働き方」だけでもよいと感じる。これからいろいろな働き方が生まれてくるので、ここが必要なかどうか。

会長 郊外型の働き方として、働く場所と住む場所が離れている状況から職住隣接とあるが、大きな動きとして空間だけではなく時間的なところもかなり多様になってきている。

委員 「職住近接などの多様な働き方が実現し」は何を言っているか少し分かりにくい。言いたいことは、シニアにも副業をやりたい人にも働きやすいまちにしたいということである。例えば、この部分を削除し「市民が働きやすく活気と魅力のあるまちになっている」と、主語を入れるとよい。

会長 市民だけではなく市外の人も含めるため、みんななど、表現の整理が必要となる。

委員 来る人に一役買ってほしいため「市民、市を訪れる人」とするなど、市内外を含めた表現にするとよい。

委員 総合計画と関連するまち・ひと・しごと総合戦略がある。総合戦略はまさに産業振興、働き方、人口問題を総括した形であるため、その内容を活用し、リンクさせる必要がある。

事務局 まち・ひと・しごと総合戦略は今回総合計画と一体化することを検討している。昨年終わりに国のデジタル田園都市国家構想ができたため、これからどのような形で入れるかも検討するところである。

会長 職住近接が課題ということか。

事務局 コロナを機に、テレワーク、副業など、働き方・暮らし方が変わってきている。

会長 「誰が」という主語を入れることは必要となる。「みんなが」などもある。

委員 職住近接は、企業で働いている人が仕事と住まいを近くにするという考え方であり、地域産業にイメージが引っ張られる。商店街で商売をやっていることも職住近接だが、それは職住近接と言うイメージがあまり浮かばない。職住近接は産業振興の重要なファクターだが、この中にこの順序に入れると産業振興のことを言っているのか、商店街のことも指しているのか分かりにくい。

- 事務局 地域産業に商業も含んでいるという考え方である。
- 委員 いずれにせよ、商業は地域産業に入れずに、少しそこについて書いたほうがよい。
- 委員 この趣旨は、1行目にあるように、いろいろな人が集まってまずイノベーションが生まれるということがあり、あわせて働き方も多様性を持っているということが伝わればよいと思う。あまり産業の種類を規定しないほうが広がりが出るのではないか。ただ、従来の産業がすくすくと育っていけばいいが、それは世の中の変化の中で厳しいということが現状である。そうした中でイノベーションを生んでいく。住んでいる人たちにとってもそのことで生活が豊かになり、働きやすく、まちも活気が出てくる、ということではないか。商業の区別の仕方も、それほど厳格さは必要ではない。例えばすでに店舗を持たずに自宅で展開されている方等もあり、必ずしも形態を規定しないほうがよい。
- 委員 「事業者や大学・地域など多様な主体との交流や連携などを通じて、イノベーションが生まれ」となっているが、イノベーションというと、地域産業として幅広く捉えた商店街を含めたものというより、どちらかという元起業、産業を指すものというイメージがある。地域の商店街や商店等も含まれていることがずっと分かる表現がよい。
- 事務局 多摩市の業種別事業者数では卸・小売業が一番多く、次いで宿泊・飲食サービスとなっており、多摩市で「地域産業」といった際には、これらが大きいウエイトを占めている。
- 会長 産業という言葉の中でそれらは含んでいるとして、ここはこのままとする。
- 委員 農業は個人の話だが、「農地の持つ多面的な機能」は、一般市民が享受しているものが多く、農地がなくなって一番困るのは市民のはずであるため、そこを認めていかないといけない。そのために都市農業振興基本法ができており、多面的な機能を活かすためには市民と事業者が協力しなければならない。市民は都市農業に対して理解があまりなく、農地の重要性はまだまだ認識されていない。公園があればいいという声もあるが、公園はお金がかかる。農地は農業者が自分たちで管理をし、そこから利益を得るのは市民である。ここは「活かすため」としないと都市農地は守れない。都市農地はこれからどんどんなくなっていく。都市農業と都市農地は違うと思っている。
- 会長 この「活かすため」の「ため」があることで意図が明確ということである。農業者と市民とあるが、市民だけでよいか。
- 委員 公益性を考えた場合には、「市民との協力」でよいと考える。
- 委員 最初のご意見は「都市農業が持続し」に「活かすため」が後ろにかかってくるので、あたかも都市農業を持続するために農業者と市民が協力すると読めることが問題であった。であれば語順を「農地の持つ多面的な機能を活かすため、農業者と市民が協力し、その結果として都市農業が持続している」としたい。
- 副会長 冒頭の「大学・地域」に違和感があるので、例えば「事業者や地域の多様な主体が交流し連携することを通して」としてはどうか。大学がここでクローズアップされるのは、これまで議論があったということか。
- 会長 多摩地域では産業イノベーションというと、大学との連携となる。
- 副会長 そうであれば、「事業者や大学など地域の多様な主体が交流し、連携することを通して」としてはどうか。また、文章のあり方として「なっています」という現在完了形にしているが、これはその前の審議会で「目指します」は政治家の公約のようで上から目

線に聞こえるという議論があり、将来のまちの形をこのようにつづるといった流れになったと記憶している。ただ初見の方にとって、これはいいことであるがそのようになっていない、と違和感を持つ場合もあるかもしれない。例えば「目指すべきまちの形 4」として、「みんながいいきと働き、活気と魅力あふれるまち」として、「～なっています」とつなげると、読む側はなるほどと感じるのではないか。

会長 行政が何かをする、行政に頼るというニュアンスではなく、こういう状態になっている、実現しているという状態を描いたほうがいいという議論を受けたものと記憶している。

副会長 その議論が記憶にある。みんなが実現していくという含みがあることをその都度確認するとよいと思う。なぜこのような表現になっているかを入れこむとスムーズに読んでいただける。

事務局 資料 49 をご覧いただくと第5章は目指すまちの姿となっており、章の初めからすぐ目指す姿の説明に入っているため、初めに説明を入れるようにしたい。冊子等で一覧にした場合は第5章が目指すまちの姿であることは分かるが、離れてしまうとそもそも何を記載した章か分かりにくいいため、対応する。

5 みんなが安心して快適に住み続けられる多様性があるまち

委員 「住みやすく多様な世帯」の「世帯」を「ライフスタイル」にしてはどうか。

会長 世帯では人数や年齢構成というイメージになるため、生き方というニュアンスも含めライフスタイルとする方向で修正いただきたい。

委員 「これまでのまちづくりを踏まえながら、地域のあり方の変化」は抽象的で、将来を見据えた姿が分かりにくくなっている。例えば「様々な活動、交流、住まい方に対応できるまち」などに置き換えられないか。活動、交流、住まいという3つを入れて、それが安全、快適、しかも～、ということが対応できるまちというニュアンスにしたらどうか。また、今はやりのウォーカブルで、多摩市はかなりウォーカブルなので、基本計画かもしれないが、多摩市版にバージョンアップしたウォーカブルのようなものを目指したい。見出しに「多様性があるまち」とあるが、都市づくり、交通、防災、防犯、住宅に関して多様性があるまちとする必要があるか。人々の多様性とは言うが、まちが多様性、とは唐突であると感じる。シンプルに安心、快適、いきいきした～等の実現、とすればいいのではないか。

会長 意図としては、変わる、対応できるということであると思う。言い方は検討いただきたい。「多様性があるまち」については、どういう議論だったか。

委員 多様性というより、いろいろなことに対応できるという表現がまちづくりとしては適切かと思う。歩くことも含め、電動アシスト等、いろいろなスタイルの交通手段がまちづくりの中で重要になっている。最後の段落の「交通ネットワーク」がそれを指し、包含していると考える。

会長 「交通ネットワーク」は、道路ネットワーク等であり、移動手段にまで及ばないという気がする。「交通ネットワークや移動手段」と入れてもよいかもしれない。

委員 移動手段は今後多様化していくと考えられるので、そのことをなるべく表現できるとよい。

会長 「交通ネットワーク」には道、交通手段ともに含まれているが、移動手段を記載するかどうかを分かりやすさの観点から検討いただきたい。

委員 「安全で安心して暮らしています」とあるが「安心して安全に暮らして」としてはどうか。

副会長 「まちづくりを踏まえながら」とあるが、踏まえるとは何かを述べるときにその点に依拠するということであり、「これまでのまちづくりの達成に依拠しつつ」ということだと思う。また「市民や地域、行政の助け合い」とあるが「行政の助け合い」では行政が助け合いの中心にいるようで違和感がある。「市民や地域の助け合い、行政の支援により」等とする。中身には問題がないが文言がこなれていない箇所がいくつかある。のちほど表現について事務局と調整したい。

6 地球にやさしく、水とみどりとくらしが調和したまち

委員 分かりやすくなっていると思う。表現の問題かもしれないが「豊かなみどりと親しみのある水辺環境を保全・創出するために～生物の多様性が維持されています」の部分では、目的が逆転していると思う。「生物の多様性が維持されています」について、国際的にはネイチャー・ポジティブといって、失われた自然を回復（ポジティブ）させるという考え方が主流になってきているため、「維持されています」で終わると物足りない。修文としては「自然環境を支える人材が育ち、豊かなみどりと親しみのある水辺環境を保全・創出し、生物の多様性が維持・増加されている」との表現ではどうか。

委員 「それぞれが環境への負荷が少ない生活を」と、ここにも「それぞれ」とあるが「みんなが」でもよいのではないか。それぞれとは何を指しているのか。

会長 修正前を見ると「自分事」「市民一人ひとり」とあり、そこを強調したいのだと思うが、確かに「それぞれ」では分かりにくい。修正前の文言を活かしたほうがよいかもしれない。

委員 元は「それぞれの主体」という意図で記載していると思う。聞きなれてきているが具体的に何かと言われると分からなくなっている。

事務局 「生活している」では表現の範囲が狭いと感じるため、「活動している」とすると、住民も利用者も含めることができる。

委員 農業もまさにこれで、みどりの食糧システム法により、2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化をするため、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）にするとして、環境負荷の少ない農業がここに含まれている。市民だけの問題ではないので、生活、取組等の言葉も入れる必要がある。

会長 そこを入れ込む形で修文をお願いしたい。

○第3章 将来都市像

キーワード・考え方

事務局より資料49の第3章について説明。

副会長 キーワードの意味について、例えば「成長」という言葉を使うことをここで決めるわけではないという認識でよいか。

会長 そこが悩みどころで、この間の議論でもあったとおり、キーワードにしてしまうといういろいろな受け止め方をされてしまうことがある。ただこういったキーワード、考え方で表される意図を入れたいということの確認である。

副会長 了解した。先ほど事務局から高度経済成長期の成長ではないという話があり、それはこの議論の積み重ねを見れば明らかであるが、都市像には注釈を付けるわけにはいかないので、俳句同様、この言葉だけで勝負しなければならないところがある。脚注として「この成長は高度経済成長期の成長ではない」と付けるわけにはいかない。産業振興のようなことを配慮していますよと打ち出すことは非常に重要だが、かつての成長を夢見ているわけではないということも表現に組み込まなければいけないということになる。成長は絶対使うと思い、心配になったので考えを示したが、そうではないと分かり安心した。

将来都市像案について

事務局より資料49の第3章の①から⑤の将来都市像変更案について説明。

会長 今示された論点について次回までに考えていただくことになると思うが、この場で言葉の使い方や考え方等について共有したいことはあるか。

副会長 仮に「成長」を取り上げると、安心と成長は対立させるものではなく、両立させていく、相乗的なものである。同時に安心は上から与えられる、降ってくるものではなく、みんなで支え合ってつくるものでもある。それが暮らしの賑わいや経済の豊かさにつながっていく。おそらくそこが満たされればこれまでの議論が反映されているということになる。

会長 単純にいかないところは、例えば「いきいきと」などは成長みたいな自己実現を表しているように思えるが弱いような気もするなど、いろいろとあると思われる。本日はこちらを持ち帰り、ご検討いただきたい。

事務局 今の論点について皆様のお考えをいただき、それを受けてより要件を満たす言い換え案を入れるかもしれないため、そこは次回までの間に1回目のキャッチボールをさせていただいた後に2回目を行う形で実施させていただく。

会長 積み残しはあるが、全体像は見えてきたところであり、次回も引き続きご議論いただきたい。

【3 その他】

事務局 次回の審議会は4月25日（火）19時から、3階特別会議室で実施予定である。
5月13、14、21日の3日間で基本計画策定のワークショップを開催予定である。大まかな内容としては、分野ごとのテーブルに分かれ、最終的には自分たち自身で取り組めることを発表いただく形である。ご興味があり、ご都合がよろしければ会場に様子を見に来ていただければと考えている。

会長 これにて令和5年度第1回審議会を閉会する。

【閉会】

以上